

正倉院のなぜ？



イ) 6年間奈良の正倉院展に行っている。

聖武天皇の即位が西暦724年で、来年で1300年になる。

1300年前の正倉院の素晴らしい宝物を見続けていると、なぜ？との疑問が湧いて来る。国宝がない！

薬や武器がなんであるの？本当に聖武天皇のゆかり品なの？等

ロ) 756年に献納された聖武遺愛品は750点である。

しかし、現存はたった1/5の150点のみしかない。

嚴重な管理だったはずなのに何故だろうか？

それは、日本もやはり世俗社会だったからだ。

歴代の最高権力者を初め、皆が日本最高級の宝物を欲しがったからと思われる。

ハ) 正倉院の由来は、光明皇太后が聖武天皇を偲ぶ『哀悼説』といわれている。あるいは、聖武天皇本人が仏になりたかった『崇仏心説』もある。

しかし、新説がある。それは、『藤原仲麻呂による陰謀説』である。仲麻呂はどうやって、血を流さないクーデターで権力を握ったのだろうか。

正倉院のなぜ？



横浜歴史研究会の会報『歴研よこはま』
84号(2023/6発行)の34ページのエッセイ
『色葉匂へど』その8をお読みください。
訂正:35ページ1段目、**正:764年**←誤:757年



金銀鈿荘唐大刀
〈宮内庁HPより〉

直刀。鞘は木製皮貼黒
漆塗、末金鏤、透し金具
は銀台鍍金、荘玉は色
ガラスと水晶。
陰陽宝剣はもっと荘厳で
あったと想像される。

2023年6月3日
横浜歴史研究会 宮下 幻



正倉院のなぜ??



- A. あれ、国宝がない！ **国宝レベル**
- B. 九千点もあるわりに宝物（美術・財宝類）が意外と少ない！ 中身は何か？
- C. 貴金属（**金銀**）・宝石が少ない！
- D. 薬や武器がなんであるの？
- E. 本当に聖武天皇のゆかり品なの？
750点→150点はなぜ？
- F. サインがなぜ藤原仲麻呂なの？

⇒調べてみると・・・

日本は温故知新の国

・大陸文化は『対立・略奪・皆殺し・入替』
文化(気質)と言える。

・日本文化(気質)は『温故知新・文化保存』

＜一例:正倉院＞・・・当エッセイその3で記述 <会報80号2020年>

地球環境保護・世界遺産保護や世界平和の為には、
温故知新の融和的な精神が必要だと思う。
多様性尊重とも言う。＜私見＞

訂正: 日本も世俗社会の面があった！
盗難・権力者横暴

保存できた理由

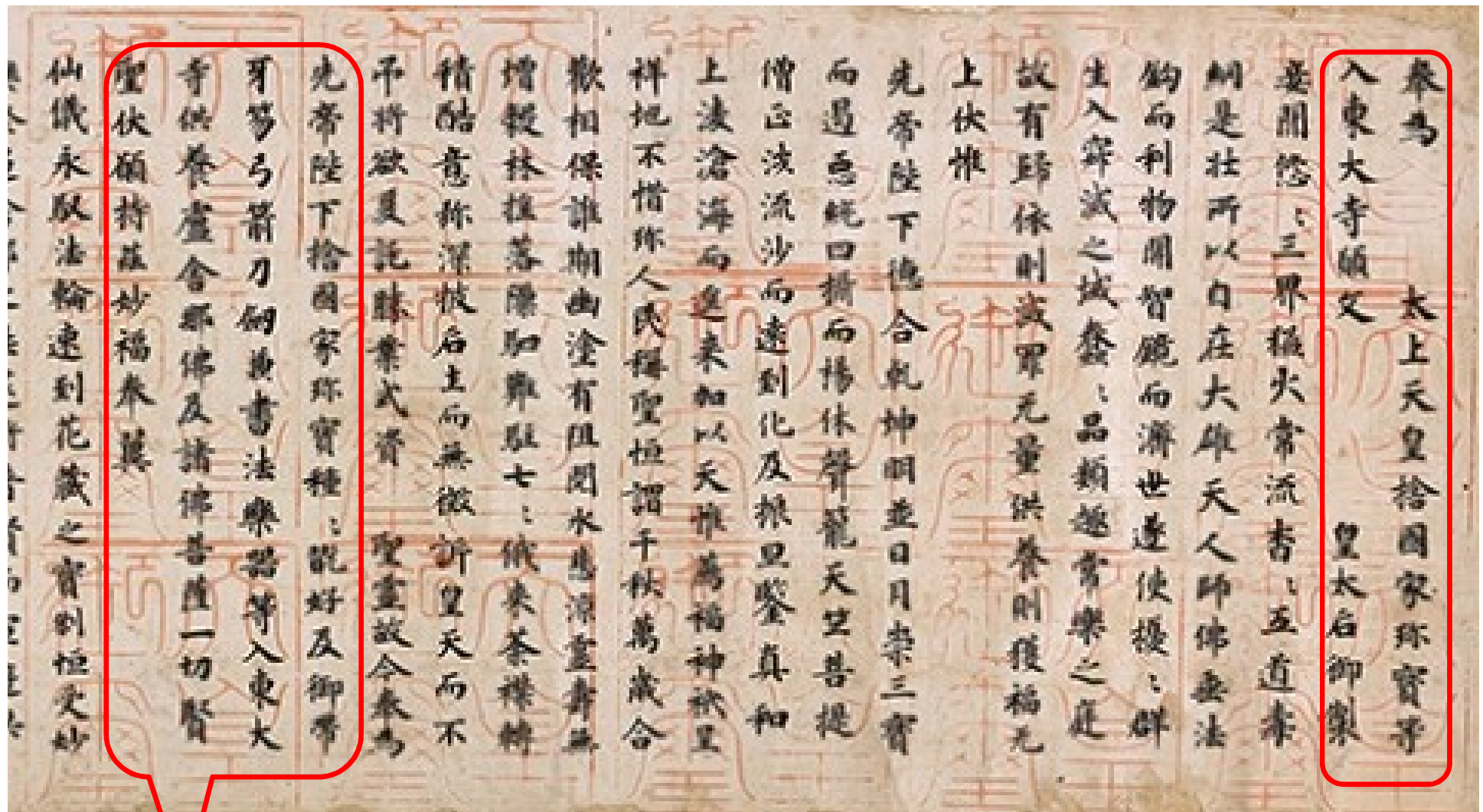
＜朝廷勅封と東大寺の努力＞

- ①校倉造りによる湿気管理。
 - ②避雷針や消火対策。
 - ③定期的な防災訓練。
 - ④櫃（ひつ）という、足付の木箱による防虫・防湿
 - ⑤『勅封』: 鍵・封印付の厳重管理。
 - ⑥財産目録(判子だらけで改ざん防止)
 - ⑦年1回の棚卸チェックと陰干し。
 - ⑧定期的な修復・劣化対策、 などなど
- そして、今進められているのは、修繕と
現代最高技術でのレプリカ(模造)作成である。



献物の目的:『哀悼説』

①『国家珍宝帳』=『東大寺献物帳』



奉為
入東大寺願文
太上天皇捨國家珍寶等
皇太后御製

要聞愆、三界極火常流者、五道未
嗣是壯所以自在大雄天人師佛垂法
鉤而利物開智鏡而濟世遠使獲、群
生入昇滅之域登、品類趨常樂之庭
故有歸依則滅罪无量供養則獲福无
上伏惟

先帝陛下德合乾坤明並日月崇三寶
而遏惡虺口猶而揚休聲籠天竺菩提
僧正波流沙而遠到化及赫旦鑿真和
上凌滄海而逸來如以天惟為福神秋呈
祥地不惜殫人民稱聖恒詔千秋萬歲合
歡相保誰期幽塗有阻閔水恩深靈壽無
增毅林摧落際如舞駐七、俄來茶禪轉
精酷意称深救后土而無微、祈皇天而不
平將欲更託膝業式資、聖靈故今奉為
先帝陛下捨國家珍寶等、託好及御帶
牙笏弓箭刀劍兼書法樂器等入東大
寺供養盧舍那佛及諸佛菩薩一切賢
聖伏願持茲妙福奉冀

仙儀永馭法輪速到花藏之寶剎恒受妙

東大寺献物帳の先頭部分。光明皇太后が願文を作成。『捨』とある。『勅』はなし。

追悼・哀惜説

愛する聖武天皇の遺品を中心に、光明皇后が寄贈したもの。

読み下し文：東大寺献物帳の先頭の願文。光明皇太后が願文を作成。『捨』とある。
〈第72回正倉院展より、内藤栄〉

『国家珍宝帳』において、願文は献物帳の巻頭と巻末に分けて記されている。まず、巻頭の願文において献物の目的を述べた部分を見ることにしよう（原文は漢文であり、引用文は筆者が書き下し、ルビをふった。以下同じ）。

（前略）故に今、先帝陛下のおんために、国家の珍宝、種々の翫好、及び御帶、牙笏、弓箭刀劍、かねて書法、楽器等を捨て、東大寺に入れ、盧舎那仏及び仏菩薩、一切の賢聖を供養す。伏して願わくは、この妙福を持ち、仙儀を翼けたてまつり、永く法輪を馱し、速やかに花蔵の宝刹に達し、恒に妙樂を受け、ついには舎那の法筵に遇わんことを

献物は聖武天皇のために国家の珍宝・種々の愛用品・御帶・牙笏・弓箭刀劍・書法・楽器等を東大寺に喜捨するもので、それによって盧舎那仏（大仏）をはじめとする仏菩薩や僧侶を供養し、その功德によって聖武天皇の御霊が速やかに花蔵の宝刹に到達し、盧舎那仏の教えの場にめぐり合はんことを願った。花蔵の宝刹とは盧舎那仏の世界のことで、盧舎那仏に関する根本經典である『華嚴經』では「華蔵莊嚴世界海」、盧舎那仏を教主とする菩薩戒の經典である『梵網經』では「蓮華台藏世界海」と称する。

巻末の願文における献納の目的を抄出すると、

右の件は皆これ、先帝の翫弄の珍、内司が供擬せし物なり。疇昔を追感し、目に触れ崩摧す。謹しんでもって盧舎那仏に献じたてまつる。伏して願わくは、この善因を用い、冥助を資けたてまつり、早く十聖を遊び、普く三途を済ませ、然る後に變を花蔵の宮に鳴らし、蹕は涅槃の岸に住まんことを。

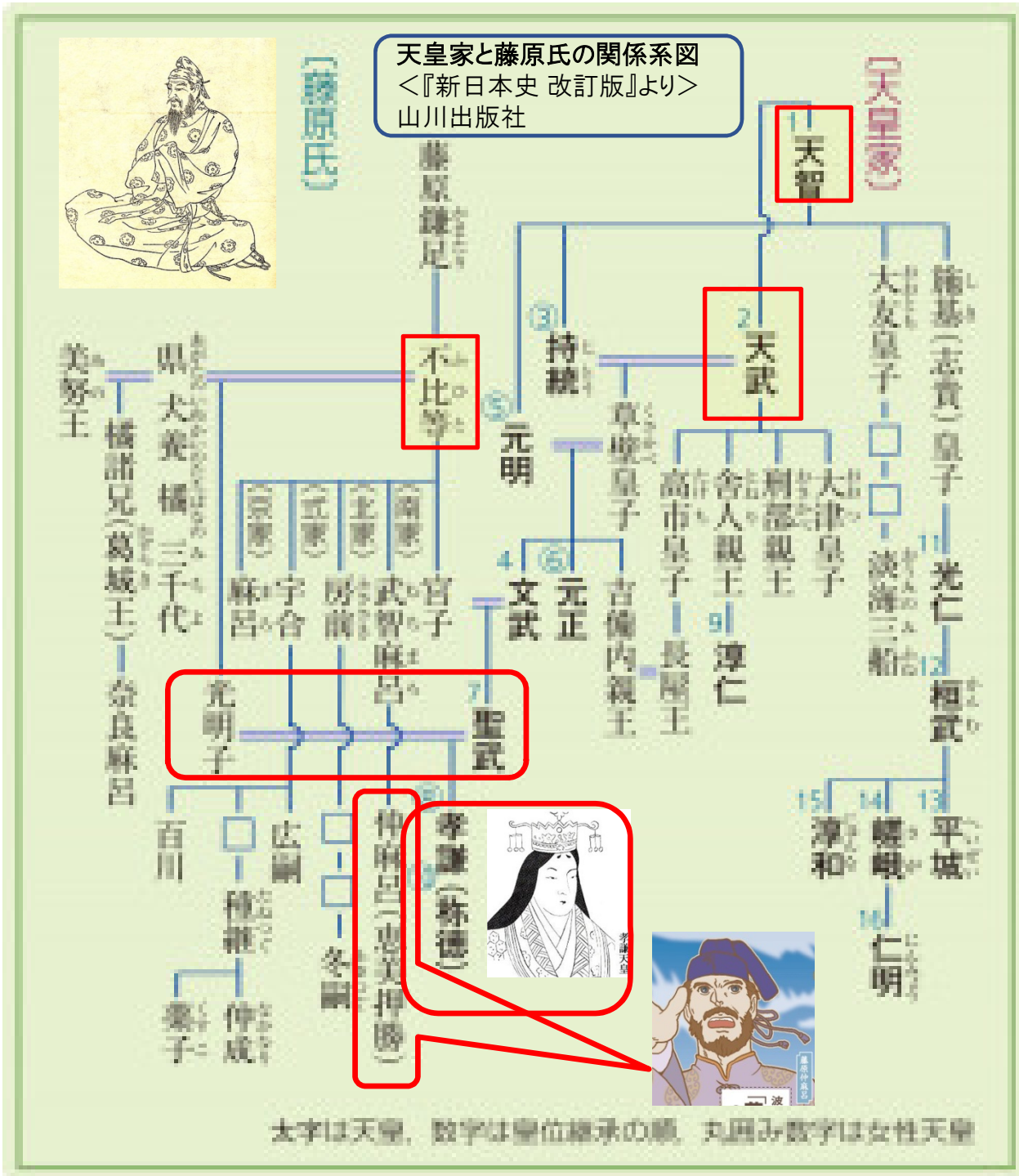
ここには、宝物は聖武天皇が愛玩した品や側近たちが用意した品であり、光明皇后はそれらを目にするだけで昔日を思い出して崩れ落ちてしまうこと、盧舎那仏に宝物を献納することで聖武天皇の御霊を乗せた輿が速やかに「十聖」を旅して三途の川を渡り、花蔵の宝刹へと到達することを願っている。

願文より、宝物の献納は東大寺の仏を供養するとともに、その功德によって聖武天皇の御霊が速やかに花蔵の宝刹に到達することを願い、さらにそこに至る過程にある「十聖」を無事に修めることを祈願して行われたことがわかる。「十聖」とは「十地」あるいは「菩薩十地」ともいい、菩薩（修行者）が仏になるために必要な十の修行をいう。仏教では

聖武天皇と光明皇后



叔母と甥、
共に不比等
邸で育つ。
同年生まれ



『崇仏心説』 聖武遺志：仏になりたい

生前の出家名：『沙彌勝満』（しゃみしょうまん）

死後に一切の宝物を捨て、盧舎那仏に寄贈する。如来になりたかった。

- ・盧舎那仏とは：華嚴経における、絶対的中心仏。光・太陽の意味。（真言宗における大日如来に相当）

別の新説『仲麻呂陰謀説』

……後述します



らん じゃ たい
蘭奢待



明治天皇の切り取り

- ・天下一の名香
- ・156cmの香木
- ・38か所の切取跡
- ・東大寺献物帳には未掲載⇒
聖武天皇ゆかりでは無かった！



<宮内庁HPより>

D₁. 武器・宝剣はどこに？

①『東大寺献物帳』=『国家珍宝帳』:

- ・太刀
- ・弓 ・ 箭(矢)
- ・甲(よろい: 鎧)



各100点(計400点)。

含む宝剣5口、矢約5千本

⇒ 恵美押勝の乱で出庫使用消失。
現存は、宝刀3口、挂甲残欠のみ

壬申の乱の武人復原
(奈良文化財研究所所蔵)
正倉院の残欠を参考に復元！



金銀鈿荘唐大刀
<宮内庁HPより>
陰陽宝剣はもっと荘厳であつたと想像される。

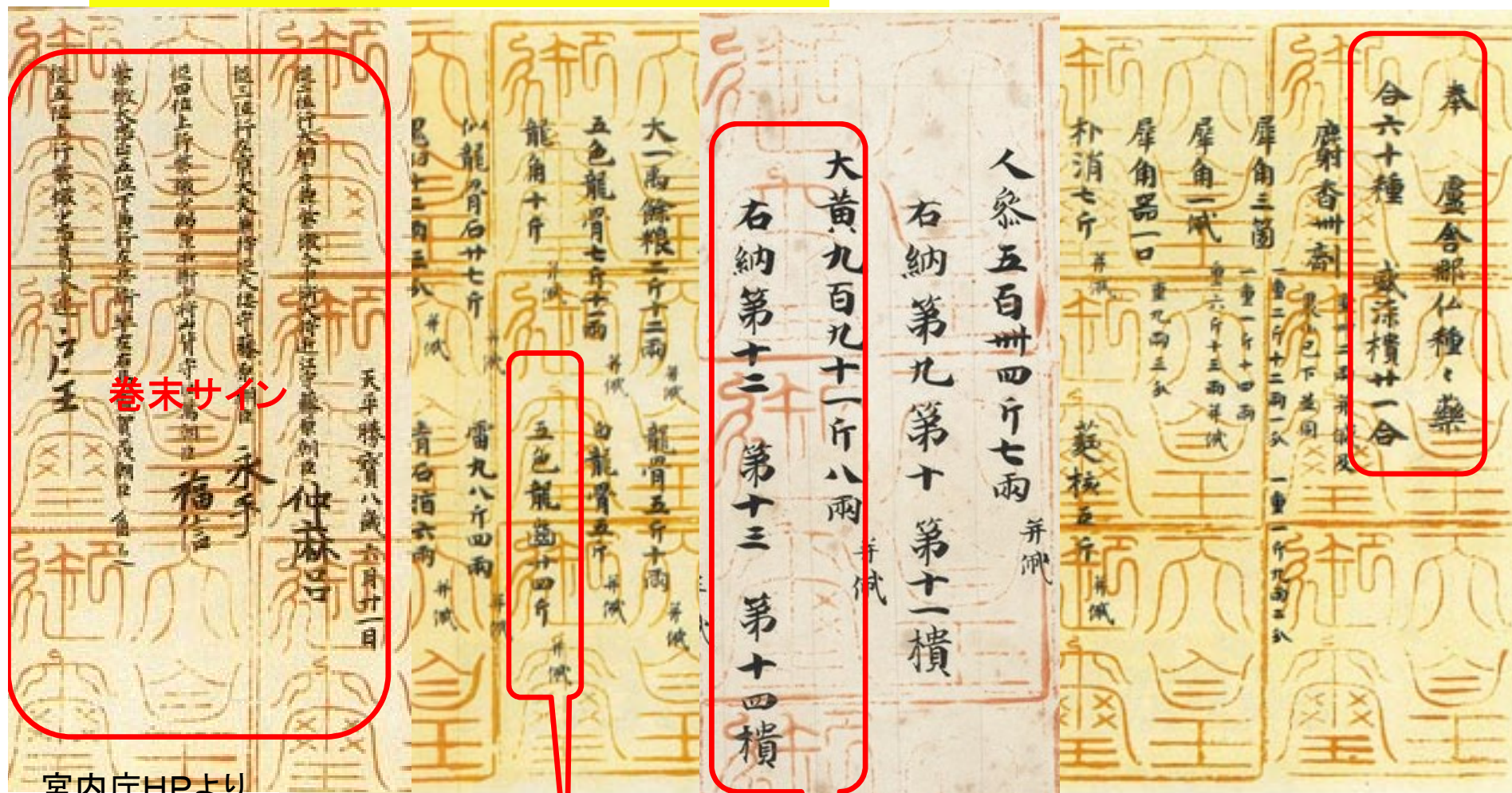


D₂. なぜ薬や武器があるの？

②『種々薬帳』での献納品



薬60種。サインはやはり仲麻呂など



卷末サイン

宮内庁HPより

図1 『種々薬帳』前部 (朝比奈泰彦編「正倉院薬物」, 植物文献刊行会, 1955より)

②『種々薬帳』



60種の薬。
 施薬院・悲
 田院用か。
 輸入品。
 疫病禍での
 必需品。
 出庫多い。
 残量少ない。
 現在も薬効
 あり。

『大黄』：
 消炎性下剤
 200kg⇒残1割
 『五色龍歯』：
 象の歯5Kg弱



北倉 123 紫鉞

特記：全部で 8630g 現存する。正倉院宝物の彩色に
 もしばしば登場する赤の色料エンジの原料となる。
 今日でもラックカイガラムシの樹脂状の分泌物を精
 製し、アルコールに溶かしたセラックニスには錠剤や
 食品などのコーティング剤として利用されている。

Stick lacs.



北倉 127 治葛

特記：「烏薬之属」として保管されていたが、それが治葛
 であることが昭和期の調査で判明し、毒性も残ることがわ
 かった。フジツギ科植物で毒性成分はアルカロイド。ト
 リカブトより毒性が強いとされる。全量で 390g が現存。

A variety of Lindera root.

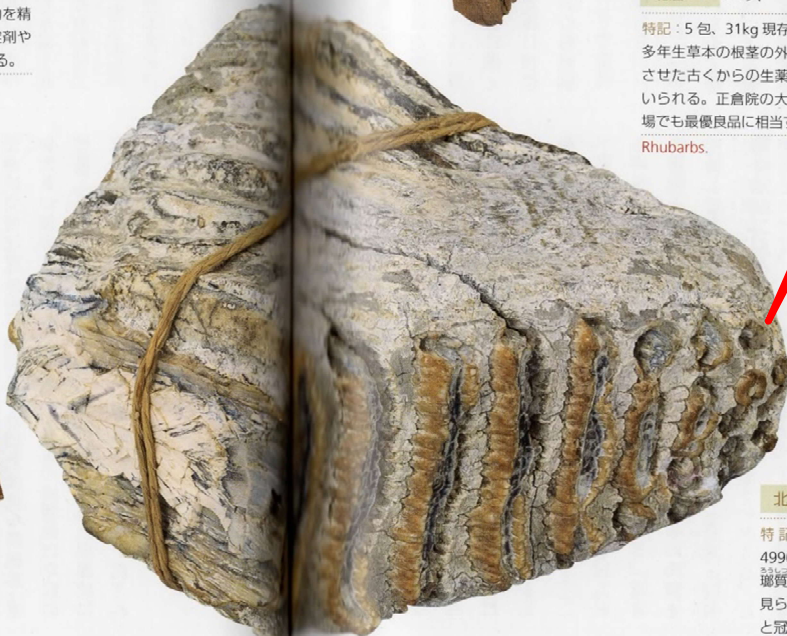
●薬物・香 [大黄／五色龍歯／紫鉞／治葛]



北倉 95 大黄

特記：5 包、31kg 現存する。タデ科の
 多年生草本の根茎の外皮を除いて乾燥
 させた古くからの生薬で、今日でも用
 いられる。正倉院の大黄は、現在の
 市場でも最優良品に相当する。

Rhubarbs.



北倉 70 五色龍歯

特記：大・小 2 個あり、あわせて
 4990g 現存する。エナメル質の白、珐
 瑯質の黄白色のほか、淡青色の筋などが
 見られるなど変化に富む外観から「五色」
 と冠せられたと考えられる。

Proboscidean teeth.

大
 黄

五
 色
 龍
 歯

紫
 鉞

治
 葛

『種々薬帳』に記載の代表的な薬物

『正倉院美術館』より

A. 国宝が少ない！ 世界遺産登録外？

- ・**国宝指定は、1997年正倉院建物のみ。**目的は世界遺産登録のため。
- ・**中の正倉院宝物は、現在、皇室所有で国宝&文化財の指定しなかった。**

- ・管理は宮内庁。宝物は別の倉庫へ。
- ・**世界遺産登録。**1998年奈良は8資産。
- ・**結局、正倉院正倉は対象外！**
- ・奈良市HP世界遺産ガイドから正倉院(正倉)は抜けている。
- ・法隆寺は先に別途登録済(1993年)



世界遺産「古都奈良の文化財」8つの資産
＜奈良市HPより＞

災難と開封の歴史



正倉院の主な災難と開封の歴史

・嵯峨天皇が買い叩き

・香木切り取り

・義教が碁石持ち出し

・開封時に破損

・盗難は記録3回：
1039, 1230, 1610年

幸い、火災・戦乱は免れた。

814 (弘仁 5)	嵯峨天皇が開封。屏風36帖などを古銭で買い上げる
917 (延喜17)	東大寺創建以来初の大火で講堂や僧房が焼ける
1019 (寛仁 3)	藤原道長が暴風雨の中、勅使の立ち会いなしに開封
1031 (長元 2)	台風とみられる強風で勅封倉、南倉に被害
1039 (長暦 3)	僧らが勅封倉を焼き宝物を盗む。1年半後に逮捕
1095 (嘉保 2)	勅封倉南側の複数の倉が焼ける
1142 (康治元)	鳥羽上皇が鍵を壊させて開封。宝物の持ち出しなし
1170 (嘉保 2)	後白河法皇と平清盛が開封
1180 (治承 4)	平重衡の南都焼きで東大寺消失。南側の倉跡地が火除けに
1230 (寛喜 2)	僧2人が中倉の鍵を焼き切り鏡を盗む。鏡8面が砕かれる
1254 (建長 6)	北倉の扉に落雷。出火するが北倉内壁が焦げただけで消火
1385 (元中 2)	足利義満が開封
1429 (永享元)	足利義教が開封。碁石3つを召し香を切る
1465 (寛正 6)	足利義政が開封。黄熟香(蘭奢待)と紅沈香を切る
1567 (永禄10)	松永久秀の兵火で東大寺大仏殿など消失
1574 (天正 2)	織田信長が開封。蘭奢待を切る
1602 (慶長 7)	徳川家康が開封、蘭奢待を切る? 翌年も修理のため開封
1610 (慶長15)	台風被害の片付けをした僧3人が北倉の古器などを盗む
1830 (天保元)	屋根を大破し、修理に合わせて宝物を点検
1877 (明治10)	明治天皇開封、蘭奢待を切る。2年後に再度蘭奢待を切る

<読売新聞HPより>

『正倉院 歴史と宝物』などの記述をもとに作成。色付きは開封の記録

『碁石(棋子)・碁盤』

★配布資料以外



義教が3個
持ち出す



こんげばちるのきし
紺牙撥鏤碁子

サイズ：径 1.6 ~ 1.7cm
厚さ 0.6 ~ 0.7cm

材質・技法：象牙 紺染、



こうげばちるのきし
紅牙撥鏤碁子

サイズ：径 1.5 ~ 1.7cm
厚さ 0.7 ~ 0.8cm

材質・技法：象牙 紅染、



げぼちるのきし
撥鏤碁子

サイズ：径 1.5 ~ 1.7cm
厚さ 0.7 ~ 0.8cm

技法：象牙 紅染、

132 枚が伝わる。
ained ivory go
pieces with
u decoration.



くろのきし
黒碁子

サイズ：径 1.4 ~ 1.5cm
厚さ 0.8 ~ 0.9cm

材質：蛇紋岩

特記：119 枚が伝わる。
この黒石製の碁子のみ両
面の頂が平らである。

Black go game pieces.



しろのきし
白碁子

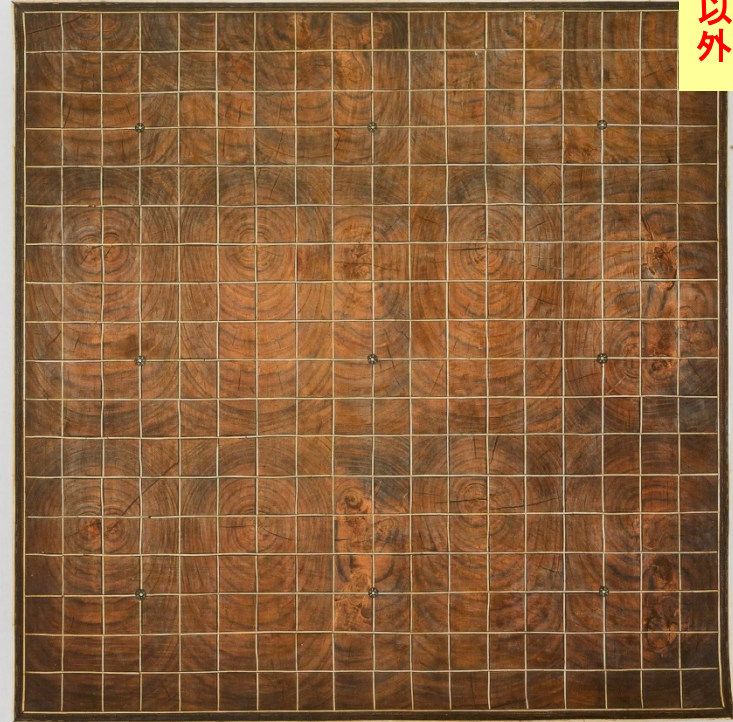
サイズ：径 1.5 ~ 1.7cm
厚さ 0.7 ~ 0.9cm

材質：石英

特記：145 枚が伝

White go game pi

4 種類とも 北倉



線は象牙を象嵌した

盤上面

『正倉院美術館』より

た長い牙の象、象の
足元には山岳、左右
には花枝が平脱で
表されている。



97 ●遊戯具[銀平脱合子/碁子]



側面

二 明治年間の正倉院宝物の私蔵とその売却

明治五年に正倉院を開封して調査を行ったのを皮切りにして、以後宝物の修理や整理のために、常時正倉院が開扉されていた。その間に、多くの宝物類が流出して、民間に私蔵されることとなった。そうした宝物類が世に姿を現わしてくるのは、一世代後になって、所蔵者の没後に、遺族によって蔵品が市場で売立てられた時であった。旧大名家の売立目録や、旧財閥家の売立目録、あるいは、正倉院宝物の調査係や整理係の旧蔵品の売立目録などに、それらの正倉院宝物が何喰わぬ顔をして登場しているのだ。そうした中でも、世間を騒然とさせた大事件があった。

大正六年三月十三日と十五日の三日間にわたって、「東京朝日新聞」をはじめ、「大阪朝日新聞」、「東京日日新聞」、「時事新報」、「大阪毎日新聞」等は、その事件の概要を、次のように報道した。

〔東京朝日新聞 大正六年三月十三日〕

正倉院御物の怪事

貴重なる断片百余点は故小杉博士の遺族の手に在り

——数十年間蔽はれし秘密——

流
失
発
覚
1917
年

天平以来歴代の勅封たる奈良正倉院の御物は一として最大貴重品ならぬはなく、帝室に於かせられても厳密に御保管あらせらるる次第なるが、茲に同院御物の一部が民間に秘蔵せらるる一怪事あり。元來同院御物については、明治二十四年先帝陛下の思召により宮中に於て整理係を設けさせられ、係長に杉孫七郎子を、係員に西四辻侍従、股野琢、近藤久敬、稲生真履、堀皆春諸氏を挙げ、爾來十数年間是が整理を継続し居たる処、其当時既に御目録にありて実物なきもの又は欠損せるもの少からず、整理係にても少からず困却し居たり。然るに最近に至りて其残欠と接続し若しくは紛失せるものの全部百余点が、其当時博物館歴史部主任たりし故小杉榎^{おんそん}博士の遺族たる小石川原町小杉美次郎^{みよし}及び博士の女婿たる同所石本秋園等の手によりて転売せらるるに至れり。何をいふにも是等の品は美術上の至宝といはんより寧ろ国家的貴重品なるを以て、買ふ方にも容易に手をつけず然るべき鑑定家に鑑定を乞ひたるが、其鑑定の選に当りしは長らく該整理係勤務たりし小石川区大塚窪町三十四遠閑田政平氏なりし為め、端なくも御物の一部なる事を看破さるるに至れり。

調査・修理で持ち出され、博士の死後に遺族が売却。百余点！

明治時代の流出事件

D₂. なぜ武器があるの？ 宝物の数の増減が大き過ぎる？

- ・実践武器を押えたかった。各100セット
- ・変動が激しい。例えば、太刀をみると、当初100口(含む陰陽宝剣2口)
- ・仲麻呂が宝剣5口持ち出し、3口返納。陰陽剣は戻らず喪失？
- ・惠美押勝の乱で武器武具使用。
- ・棚卸の度に在庫数変動。理由不明
- ・明治以降も変動。62→56→49→55
- ・現在在庫は55口
- ・一番の宝剣は、陰陽宝剣2口だった
ところが、2010年に>
- ・東大寺大仏殿盧舎那仏須弥壇の
大刀2口のX線撮影で「陽劔」「陰劔」の
象嵌銘が発見。

年号		西暦年		太刀		弓		鉾		鞍	
昭和	五二年(一九七七)			四九		二七	三三	一〇			
明治	五年(一八七二)			五六		二七	三三	一〇			
天保	七年(一八三六)			六二		二〇	三三	一〇			
元禄	六年(一六九三)			六二		弓あり	二束	一〇			
慶長	一七年(一六一二)			六一		?	?	一〇			
建久	四年(一一九三)			二七		二	一	七			
延暦	一二年(七九三)			三		〇	〇	〇			
天平勝宝	八年(七五六)			一〇〇		一〇〇	〇	〇			

棚卸状況：武器武具の数量変移
 <『正倉院の謎』より>

D₂. なぜ武器があるの？

- ・武器武具は実戦用。各100セット
- ・一番の宝物は、陰陽宝剣2口だった<剣璽として>
⇒行方不明

＜ところが、2010年に＞

東大寺大仏殿盧舎那仏須弥壇の
大刀2口<明治末期出土>のX線
撮影で「陰劔」「陽劔」象嵌銘を確認。
鉄製で長さは1メートル弱。さやは
木製の漆塗りで金銀の金具で装飾
土の中で、錆びてボロボロ

陰
劔

陽
劔

元興寺文化財研究所保存科学センター



E. 本当に聖武遺愛品なの？

献納品（遺愛品）：約750→現存150点

①『東大寺献物帳』=『国家珍宝帳』：約6百数十点・・・記入順

・袈裟類：9領

・厨子：1口。含む、御書4巻、結納品1箱、

愛玩品1箱（王羲之書法20巻、撥鏤尺（ばちる）、牙尺、笛、刀子、念珠など）

・楽器類：17点。 ・碁局：1具（含む碁石）、双六局1具

・武器類：太刀・弓・箭（矢）・甲（鎧）各100点（計400点）。

含む宝剣5振、矢数千本 ⇒恵美押勝の乱で出庫使用。

・鏡：20面。⇒一部盗難 ・屏風：100畳 ⇒大幅散逸

・枕：1。御軾（ヒジツキ）3枚。 ・床（ベッド）：2張

②『種々薬帳』：60種の薬（輸入品）⇒残量大幅減・空袋

③『屏風花氈等帳』：屏風24扇、花氈60床、履物、

鎮子石10、銀製品2 等 ⇒嵯峨天皇が買い叩き不明

④『大小王真跡帳』：1巻 ⇒嵯峨天皇が①も含め買い叩き不明

（⑤『藤原公真跡屏風帳』：遺愛品ではない）

☆補足：『帳』とは、目録のこと（巻物）

B. 九千点もあるのに宝物が意外と少ない！

C. 貴金属・宝石も少ない！

E. 本当に聖武遺愛品なの？



- ・後から追加された物・資料が多かった。
ほとんどは東大寺の行事と仏具・経典・書物類。
特に、頼朝と徳川家による再建&大仏開眼行事時に入庫。
- ・歴代の権力者が開封・閲覧。その際、持ち出された？
- ・後の時代に持ちだされたことを示す除物の付箋が7点ある。
(封箱、犀角葎、陽宝劔、陰宝劔、横刀、黒作懸佩刀、挂甲)
- ・明治維新後に政府管理されたが、
調査・修理で持ち出したものが大量流出？
- ・もともと、貴金属・宝石類は少なかった。宝冠は壊れ残欠に。
- ・献納品には薬類、武器武具、宮廷調度品(絨毯・屏風)等
を含み、出庫されている。

756年頃の立て続けの献納



756年の献納は、なぜか立て続けに行われた。
しかも、天皇印がベタベタ489個。直筆サインが仲麻呂等。
聖武七七忌は、何故か興福寺で実施（東大寺ではない）。

①『東大寺献物帳』=『国家珍宝帳』6/21

聖武遺品。含む、陰陽宝剣、武器武具

②『種々薬帳』（しゅじゅやく）6/21

③『屏風花氎等帳』（びょうぶかせん）7/26。残15品

④『大小王真跡帳』：王義之親子の真跡。758年6/1

⑤『藤原公真跡屏風帳』：不比等の真跡書。758年10/1

⑥『法隆寺献物帳』756年7/8、（国宝）

東大寺以下法隆寺など18カ寺に献納された。

☆補足：『帳』とは、目録のこと（巻物）

F. サインがなぜ 仲麻呂なのか？

①『東大寺献物帳』

- ・天皇御璽を全面押印
- ・勅書なのに従二位まで
- ・紫微中台 (皇太后の担当部署) の役人 (武官)

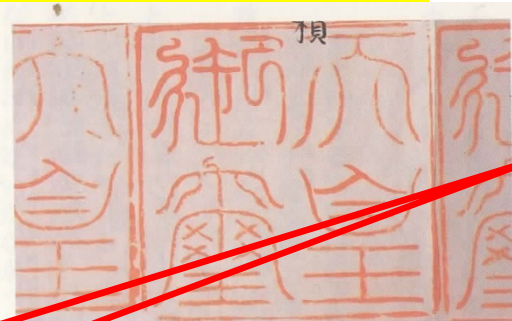
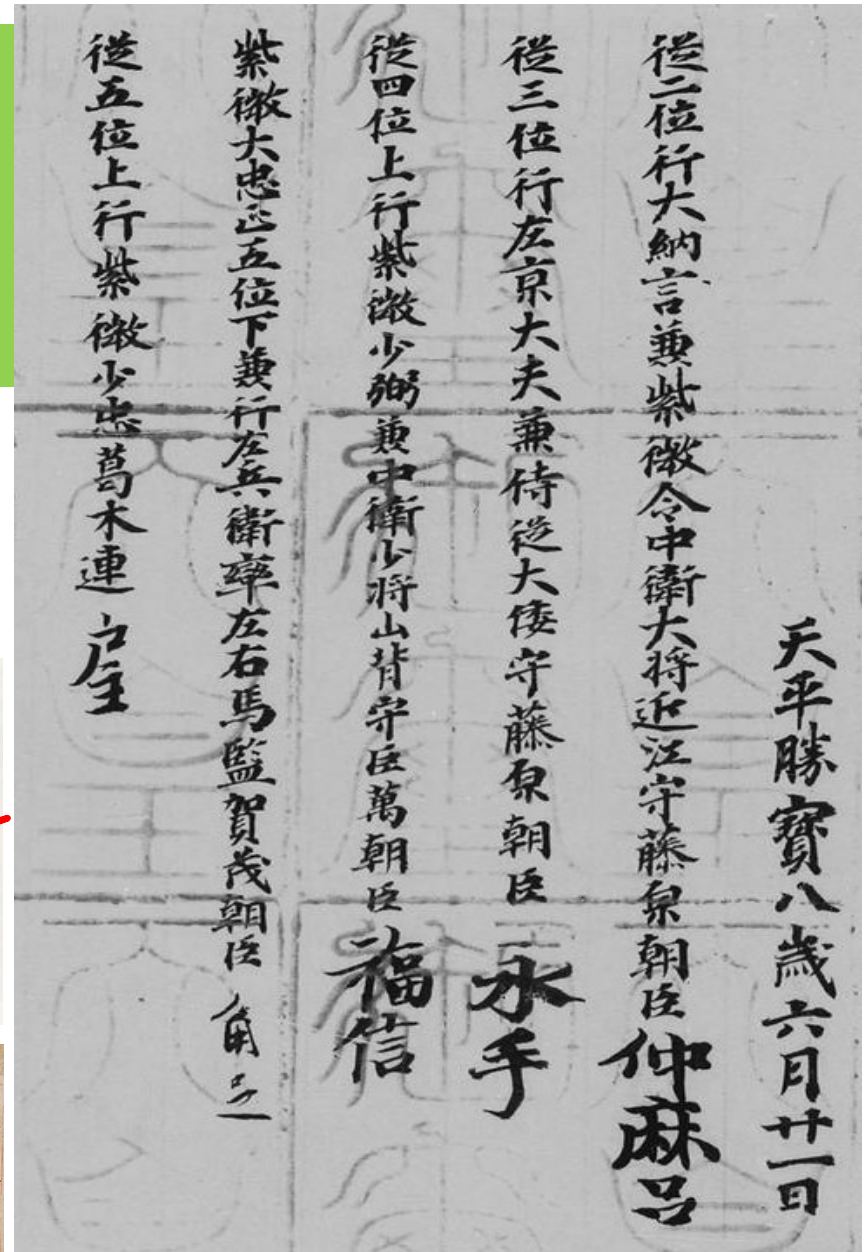
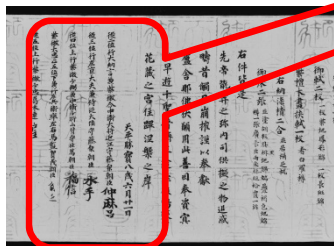


図14 「天皇御璽」 本物



①東大寺献物帳の巻末のサイン<宮内庁HPより>

藤原仲麻呂(ふじわらのなかまろ)、藤原永手(ながて)、巨萬福信(こまのふくしん)、賀茂角足(かものつのはり)、葛木戸主(かづらぎのへぬし)。天皇御璽が押印。

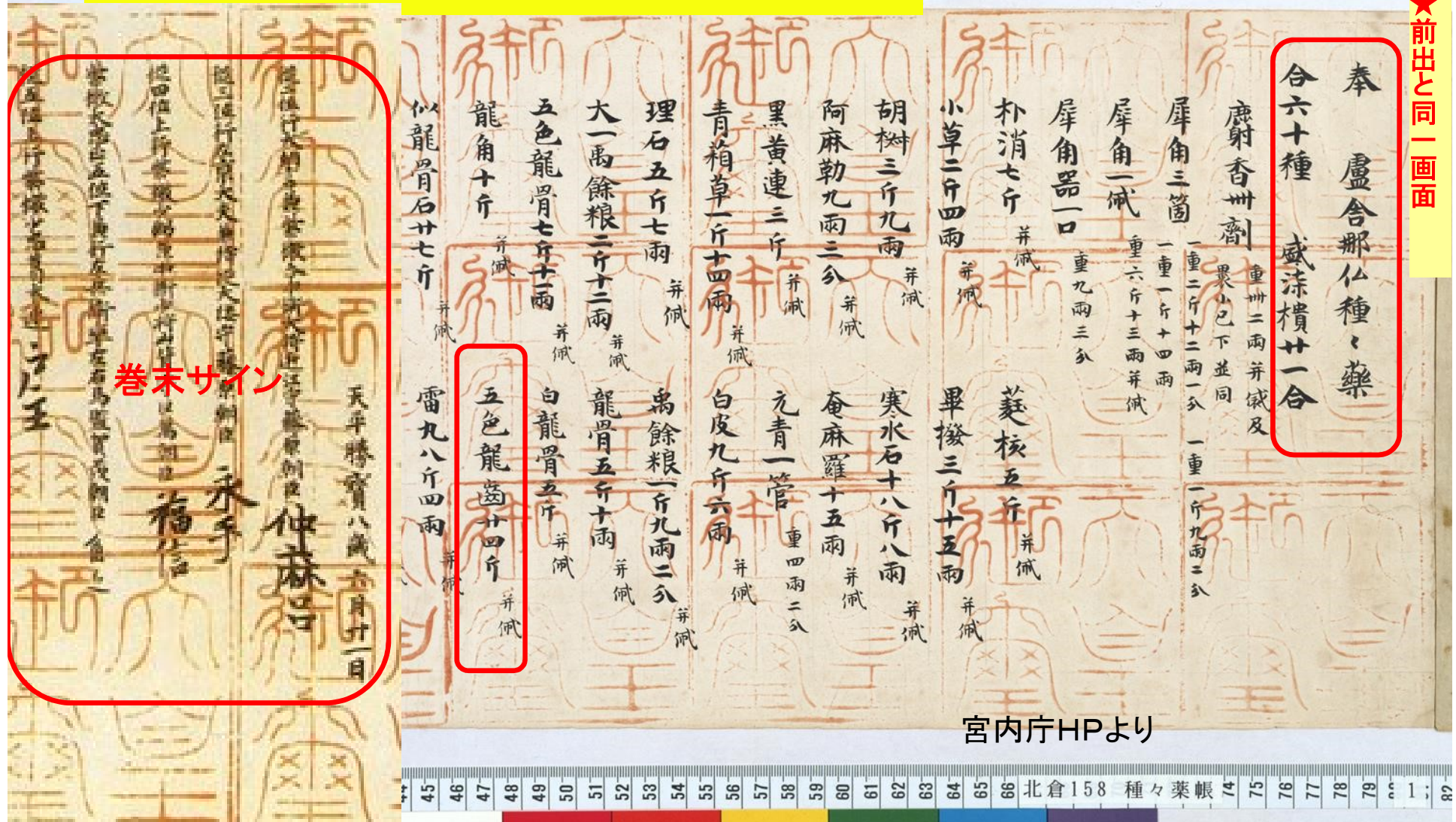
D₂. なぜ薬や武器があるの？

②『種々薬帳』での献納品



薬60種。サインはやはり仲麻呂など①と同一。

★前出と同一画面

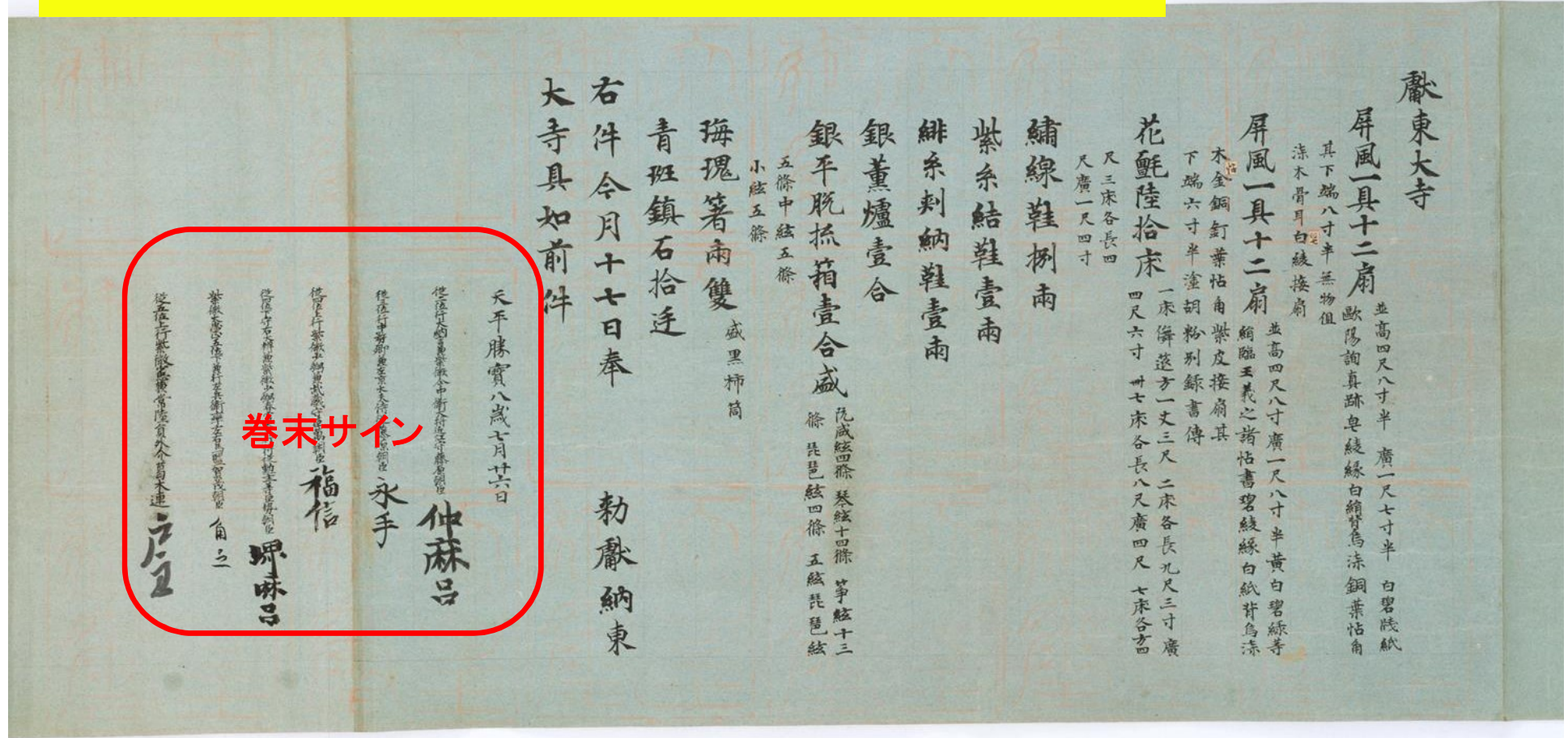


びょうぶ かせん とうちょう

③『屏風花氈等帳』



宮廷を飾る荘厳具。サインはやはり仲麻呂などに、巨勢関麻呂（堺麻呂）



獻東大寺

屏風一具十二扇

並高四尺八寸半 廣一尺七寸半 白碧綾紙
歐陽詢真跡皂綾綠白額背烏漆銅葉帖角
其下端八寸半無物值
漆木骨耳白綾接扇

屏風一具十二扇

並高四尺八寸廣一尺八寸半黃白碧綾等
銅臨王義之指帖書碧綾綠白紙背烏漆
木金銅釘葉帖角紫皮接扇其
下端六寸半塗胡粉別録書傳

花氈陸拾床

一床併遠方一丈三尺二床各長九尺三寸廣
四尺六寸 卅七床各長八尺廣四尺七床各方
尺三床各長四
尺廣一尺四寸

繡線鞋樹兩

紫系結鞋壹兩

緋系刺納鞋壹兩

銀薰爐壹合

銀平脱拵箱壹合

五條中絃五條
小絃五條

梅瑰箸兩雙

青斑鎮石拾廷

右件今月十七日奉

大寺具如前件

天平勝寶八歳七月廿六日

仲麻呂

永手

福信

堺麻呂

卷末サイン

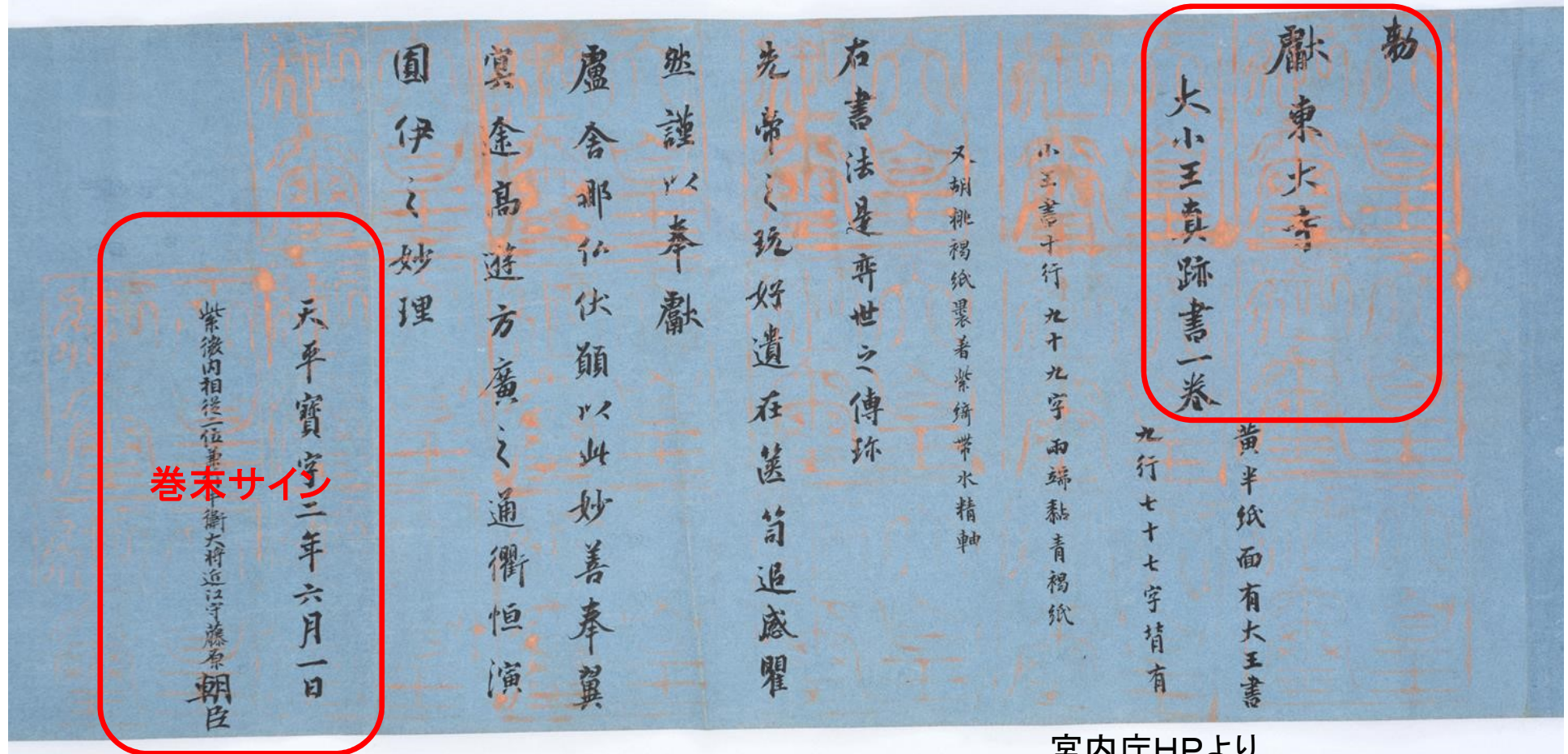
從左行兼殿中侍從陸奥守大納言木連 元三

宮内庁HPより

④『大小王真跡帳』



王羲之親子の書。サインの『朝臣』は仲麻呂。『勅』は勅書

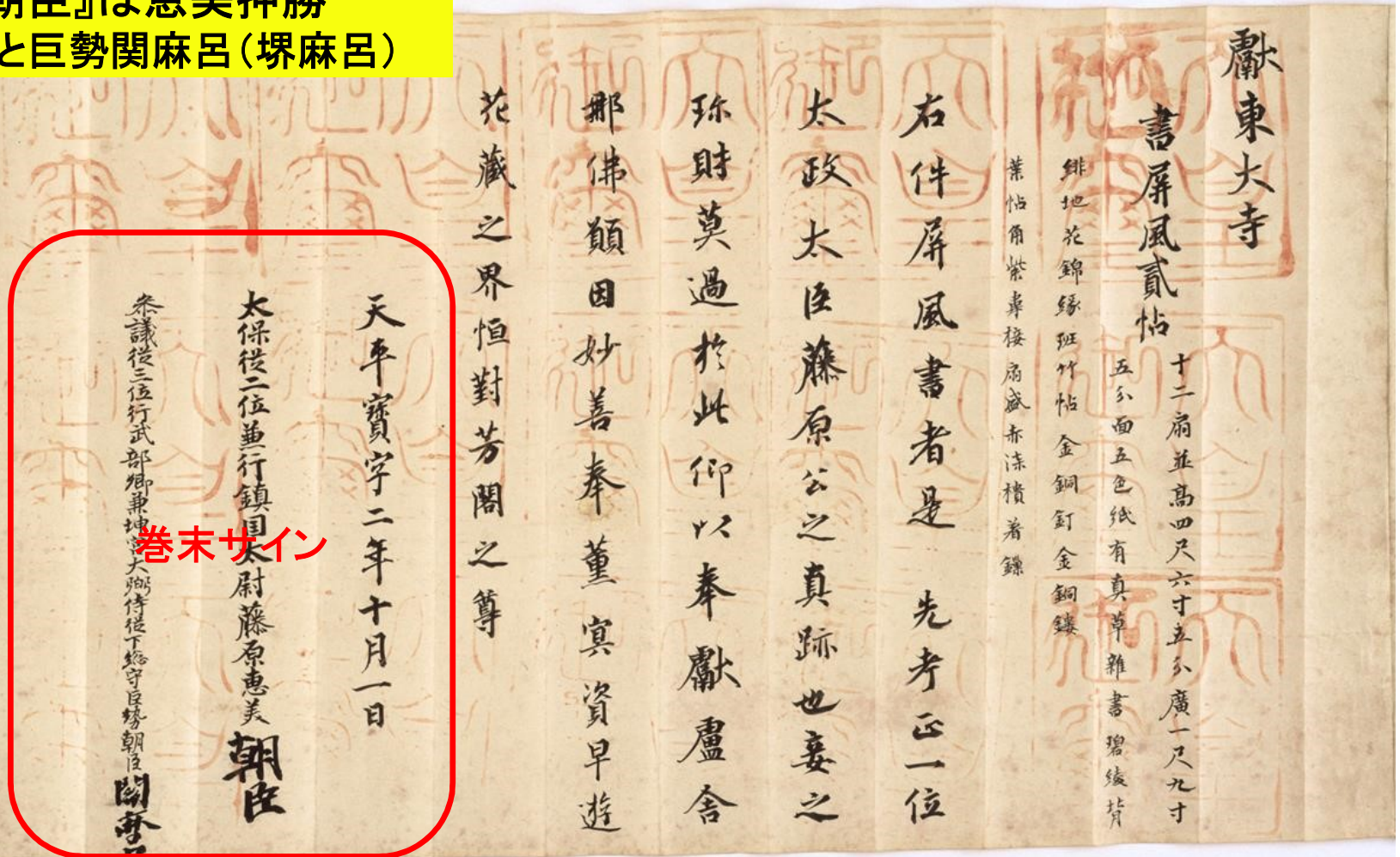


宮内庁HPより

⑤『藤原公真跡屏風帳』



不比等の書。
サインの『朝臣』は恵美押勝
(=仲麻呂)と巨勢関麻呂(堺麻呂)

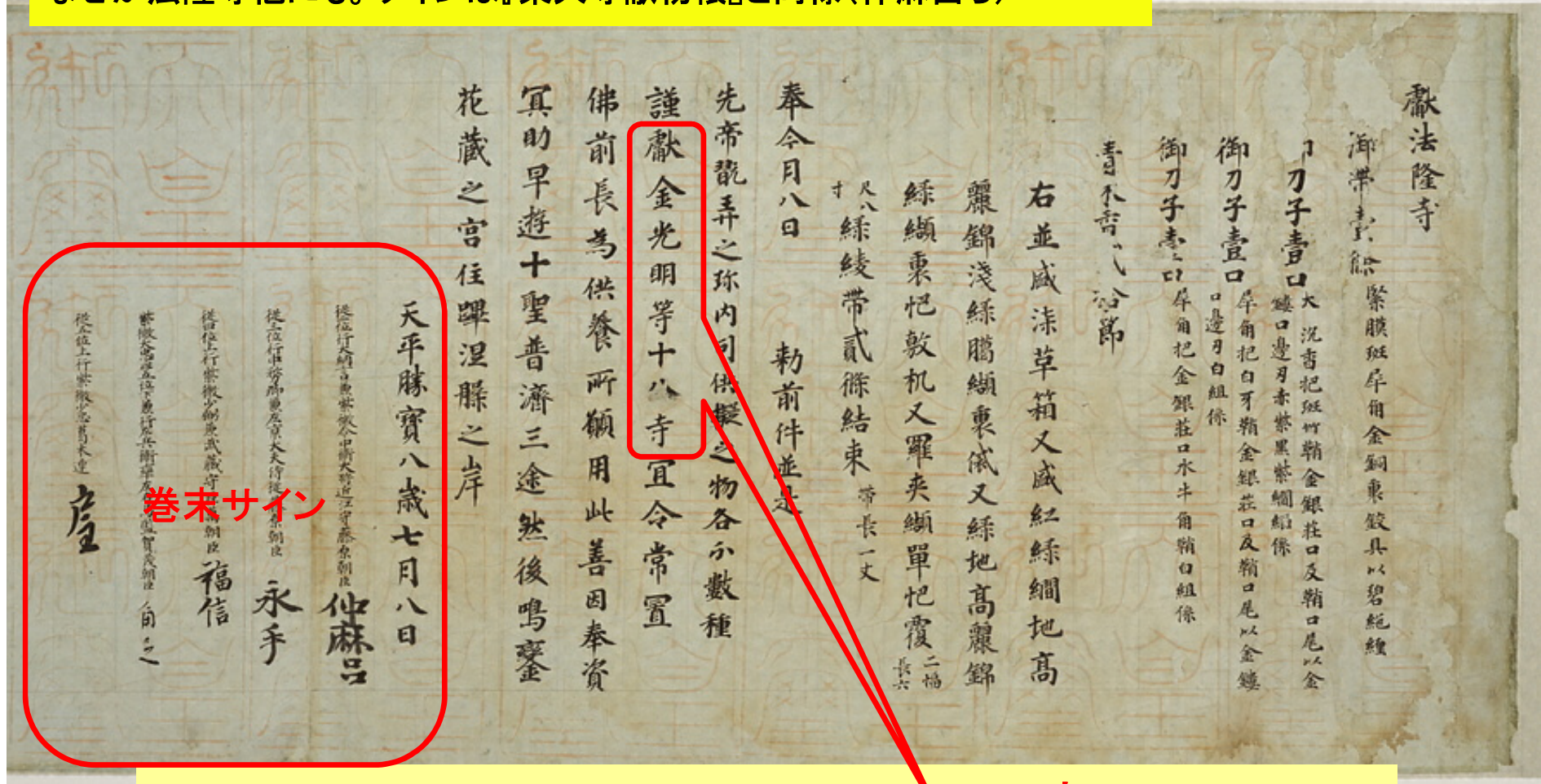


宮内庁HPより

⑥『法隆寺献物帳』



なぜか法隆寺他にも。サインは『東大寺献物帳』と同様(仲麻呂ら)



756年立て続けに、東大寺以下法隆寺など**18カ寺**に献物した。

<法隆寺より:国宝>

紫微中台とは： 皇太后政治

・『紫微中台』(しびちゅうだい)は、**一時的な組織**。

749年に設置された令外官。皇太后の家政機関という体裁をとっていたが、実態は光明皇太后の信任を得た藤原**仲麻呂指揮下の政治・軍事機関**だった。後に坤宮官(こんぐうかん)に改称。長官は紫微令(しびれい)、後に紫微内相(しびないしょう)。名は唐の玄宗皇帝の時代に中書省を改称した**紫微省**と、則天武後の執政時代に尚書省を改称した**中台**に由来する。

『紫微』とは、**紫微垣**(しびえん)の略。中国古代の天文学で、天を三垣(えん)二八宿に分けた、その一。北極星(紫微星)を中心とした、

小熊座・大熊座・竜座・カシオペヤ座などの星座群にあたり、**天帝の住む場所**とされた。転じて、天子・天位・宮廷を示す。**『台星』**(たいせい)は、紫微星(しびせい)の近くにある上台・中台・下台の三星。天子を象徴する紫微宮を守る

< Wikipediaより >

< 光明皇太后(光明子) >
< Wikipediaより >



< 唐の則天武后 >
紫微省と中台で政治。

三種の神器と 権威



奈良時代の
行政権威

- ・鈴璽・剣璽とは：駅鈴と天皇御璽と宝剣のこと。国家の大権の象徴。
- ・駅鈴：えきれい律令制で、官命によって下付した鈴。駅馬の供与を受ける資格を証明した



図14 「天皇御璽」 本物

天皇御璽(写真は現在。印影は奈良時代)



646年(大化2年)1月1日、孝徳天皇によって発せられた改新の詔による、駅馬・伝馬の制度の設置に伴って造られた

隠岐国駅鈴(複製)

国立歴史民俗博物館展示。



剣璽用の
宝剣2振：
陽劔、陰劔

仲麻呂陰謀説：藤原恵美押勝

第21回 奈良の歴史散歩
れきしさんぽ

文：奈良県高等学校教科等研究会歴史部会

藤原仲麻呂

光明皇后

波乱万丈にして悲劇の宰相
「藤原仲麻呂」
(706～764年)

年表

飛鳥時代
706年 藤原武智麻呂の子として生まれる

奈良時代(710年～)

710年 平城遷都
749年 大納言に昇進
758年 淳仁天皇から「恵美押勝」の名を賜る
760年 大納言(太政大臣)に昇進
764年 近江国高島郡で斬殺される

藤原仲麻呂

※イラストはイメージです。

仲麻呂陰謀説： 権力掌握策

聖武天皇七七忌にかこつけた、権力掌握陰謀。
孝謙・橘諸兄との権力闘争。

- ・ **一番の狙いは、『天皇御璽』(印)の借用&奪取**
名目は、聖武・光明の意思として献納帳に押印。
返却を延期するために、献納事業を立て続ける。
その間に天皇御璽で『**紫微中台**』体制を確立
- ・ **戦闘用**に朝廷の武器武具を掌握する
- ・ **陰陽宝剣**の掌握： 朝議開催権<剣・璽>
- ・ 朝廷荘厳具の掌握： **朝議開催用**<屏風・花氈>
- ・ 貴重薬の独占掌握： 疫病禍の人心掌握
- ・ 気付かれなかったために、興福寺で内輪で七七忌実施

偽の御璽印



とうだいじ ふこ しょぶん ちよくしよ

⑦『東大寺封戸処分勅書』

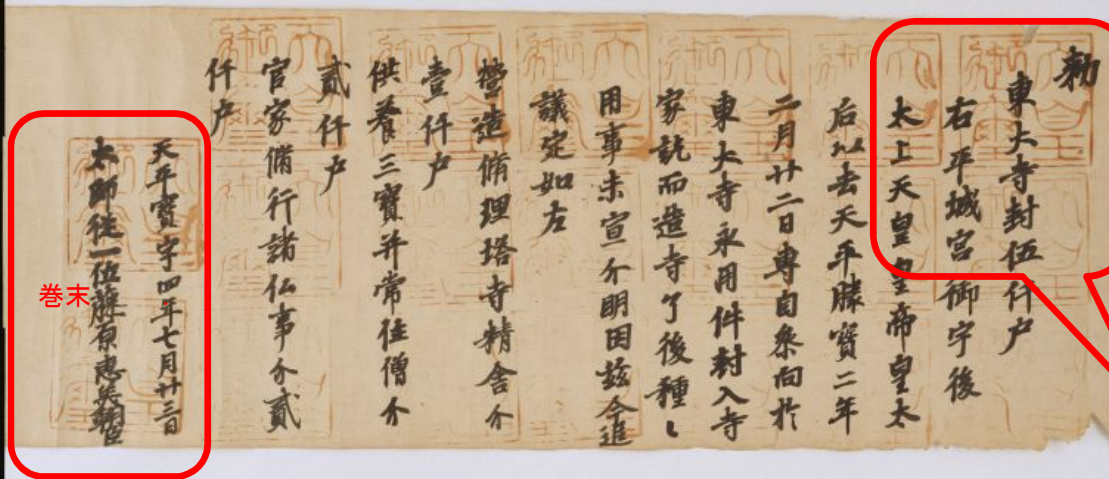
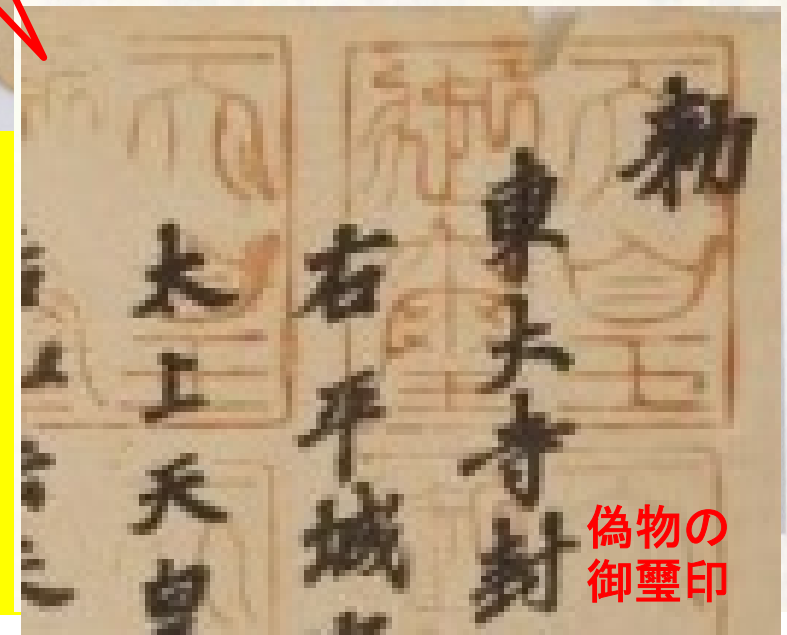


図14 「天皇御璽印」 本物 **本物の御璽印**

本物の天皇御璽印は、正倉院の光明皇太后奉献の基準白牙尺29.7cmによる方三寸（8.7cm）に正確に作られているが、『東大寺封戸五千戸処分勅書』に押印されている偽印は、9.8cm×9.8cmの大きさで、基準白牙尺の方三寸に合致しないばかりか、「皇」と「御」の字が明確に相違した字体となっている。



何故か、偽の天皇御璽印が押された勅書を発行（760年7/23）。
サインは恵美朝臣（仲麻呂）。
本物は8.7cm、偽物は9.8cm
光明崩御で仲麻呂が急造したか！？
『勅』があり『勅書』（天皇命令）の形式。

その後の仲麻呂： 栄枯盛衰

★配布資料以外

- ・『紫微中台』体制の確立： 孝謙天皇は権力外
- ・橘奈良麻呂の変：757年。
- ・淳仁天皇即位758年〈天平5年〉- 764年：孝謙天皇退位
- ・藤原恵美押勝(ふじわらえみのおしかつ)改名758年
- ・太政大臣に昇格：760年
- ・光明崩御：760年6/7。権力闘争再開。偽御璽印
- ・恵美押勝の乱： 764年。御璽・馭鈴の奪い合い
- ・道鏡を重用し、称徳天皇(重踐祚)即位764年
- ・称徳崩御： 770年。光仁・桓武朝へ。天武朝終焉
- ・藤原北家の繁栄： 永手・真楯兄弟—内麻呂—冬嗣・・・道長

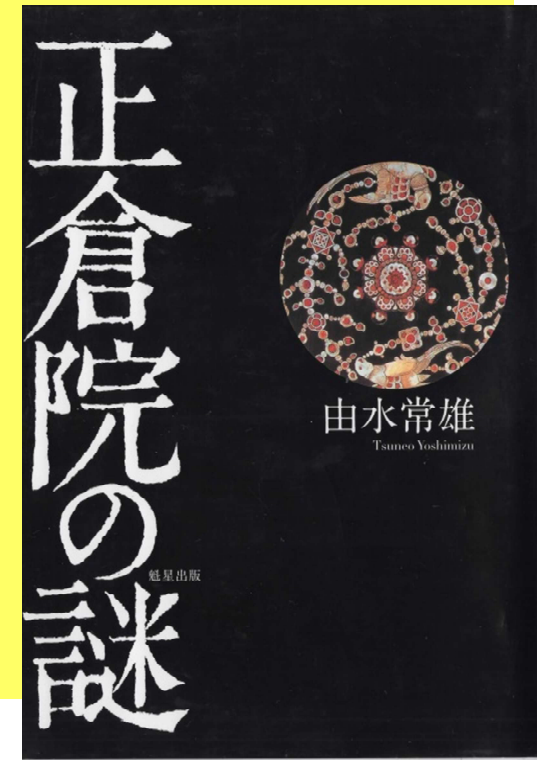
まとめ：正倉院のなぜ？



- ◆1300年保存は勅封と東大寺の努力のお蔭。
やはり権力者の横暴と盗難略奪災難はあった<世俗社会>
- A. 国宝がない ⇒建物のみ。宝物は皇室のもの。実質国宝級
- B. 九千点の中身 ⇒後からの追納。書物など情報の宝庫
- C. 貴金属・宝石 ⇒元々が少なかった
- D. 薬や武器 ⇒仲麻呂の陰謀
- E. 聖武天皇のゆかり品(750点→150点)
⇒武器400点、屏風花氈など嵯峨天皇出庫 ほか
- F. サインがなぜ藤原仲麻呂なの？
⇒仲麻呂の権力掌握陰謀。武器・剣璽などの確保
- ◆日本社会は権威に従う。鈴璽・剣璽の奪い合い。
- ◆栄枯盛衰と、藤原千年朝廷 & 天智朝への推移
- ◆正倉院は奇跡だった。聖武・光明・仲麻呂に感謝！
- ★類推できたのは正倉院で物・書物・記録が一式揃ってたから

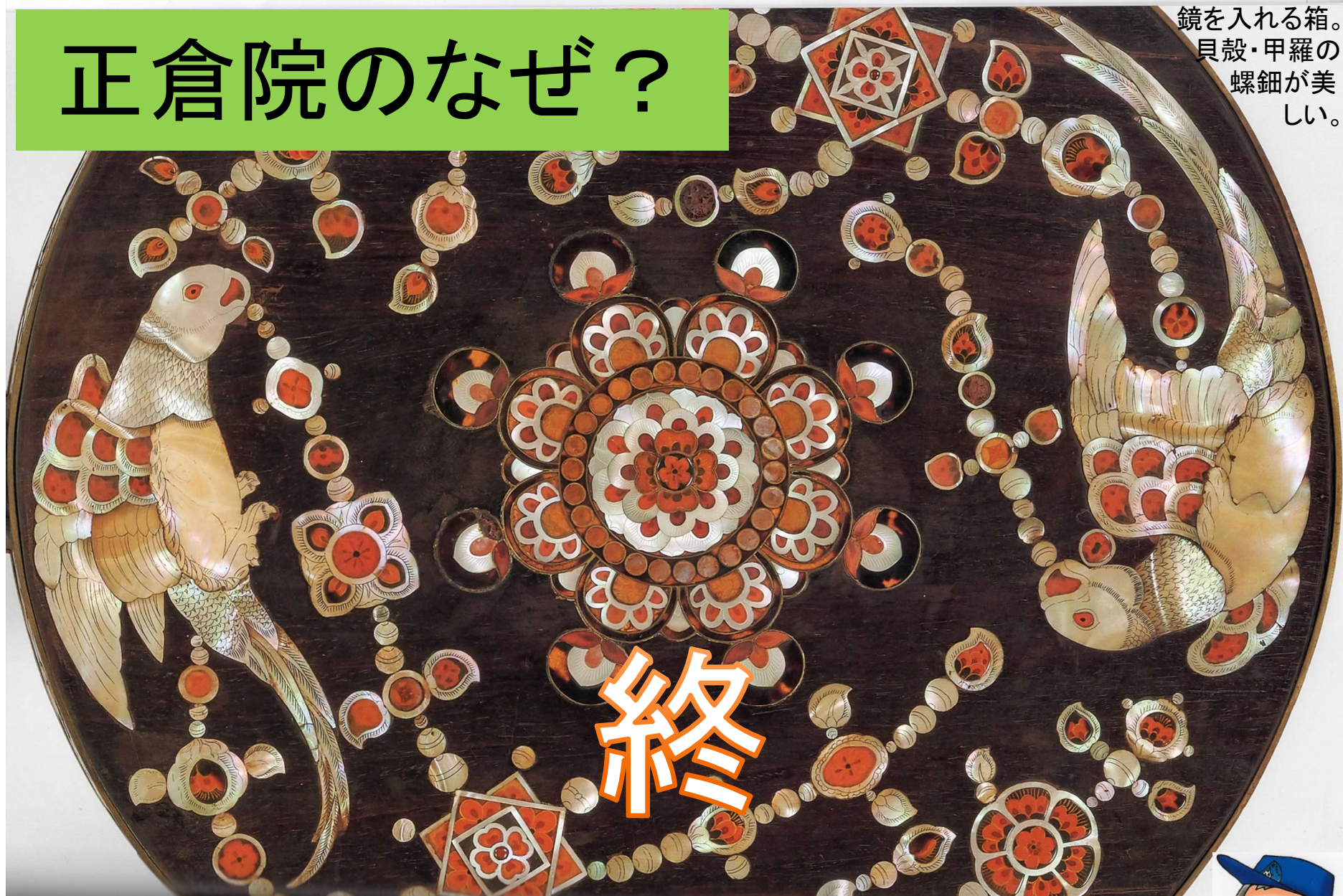
《引用・参考文献》

- フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
- 『正倉院の謎』 由水常雄著、2007/6/30、魁星出版、¥3,600
- 『正倉院美術館』米田雄介・杉本一樹編著、2009/11/13、講談社
- 『第71回 正倉院展』奈良国立博物館、2019/10/25。
同、『第72回』・『第73回』・『第74回』
- 『聖武天皇の天平遷都と大仏造立』竹内章二、
2015/10/1、横浜歴史研究会
- 『正倉院文書から見えるもの』木村高久、
2017/7/9、横浜歴史研究会
- 『献物帳の諸問題』関根真隆、宮内庁HP
- 宮内庁HP
- エッセイ『色葉匂へど』その3、宮下元、
横浜歴史研究会会報80号(2020/5)



正倉院のなぜ？

鏡を入れる箱。
貝殻・甲羅の
螺鈿が美
しい。



終

ご清聴 ありがとうございます

横浜歴史研究会

宮下 幻

hch01244@niftv.com

